

客観的な指標の算出方法

成績評価 / GPA 制度

本校では成績管理を厳格適正に実施するために成績評価の方法を定め、学生個人の GPA を算出し、客観的な指標として活用しています。また、学科ごとの GPA に基づく成績の分布状況を年度末に作成し、教職員が把握することで学生に対する学習指導に活用しています。

■成績評価について

成績評価は5(7)段階で行い、評価基準は下記表の通りとなります。

評価	合格				不合格		
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)	F(試験不合格)
GP	4	3	2	1	0	0	0
評点	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未 満	-	-

・上記評点は以下の項目で算出され、決定します。

- ① 科目毎の年2回実施される前期末及び後期末の試験成績、及び科目毎のレポート評価点。
- ② 平常点（授業内で行われた小試験、レポート提出、出席率等）

上記①②を合計し、1/2 を乗じた数値によって算出されます。

止むを得ない事情によって出席できなかった場合は必ず学科の教務職員、及び講師へ申し出てください。

・学則別表に定める「講義」「実習」「演習」の別により、それぞれ筆記試験、実技試験を行います。

・実技試験においては実習内容に応じた評価項目を作成し、その項目ごとに評点を定め、合計点を評価とします。

不合格科目について

- ・不合格科目（不可、履修放棄を問わず）が一つでもあると進級判定、卒業認定を受けられません。
- ・不合格科目が一つでもあると成績証明書の発行が出来ません。
- ・不合格科目は前期末、または年度末に行われる補講期間内に、科目ごとに定めた補講を受講、またはレポート提出し、合格することで C(可)となります。

GPA 制度について

成績評価と GP の対象は上記表の通りです。

GPA を算出する際の計算式

$$(4 \times \text{S 評価の単位数}) + (3 \times \text{A 評価の単位数}) + (2 \times \text{B 評価の単位数}) + (1 \times \text{C 評価の単位数})$$

全履修科目の単位数合計値

例

	単位数	評価	GP	GPA算出(GP×単位数)
科目 1	4	A	3	12
科目 2	2	S	4	8
科目 3	2	S	4	8
科目 4	5	C	1	5
科目 5	2	S	4	8
科目 6	3	B	2	6
科目 7	2	A	3	6
合計	20			53
		GPA		2.65

※この例では、GPA算出合計値(53)÷履修単位数合計(20)で算出。

GPA 制度の実施時期

GPA 数値の算出は年度末補講期間終了後、全ての授業科目の成績評価が確定する時期とします。

GPA の活用

就職活動の際に企業から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することが出来ます。海外留学の際に大学等から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することが出来ます。学生に対する個別の学習指導に活用し、学生本人が成績の参考地、目標値として設定することが出来ます。

学内選考が必要となる事象に推薦基準として活用する場合があります。

※GPA とは【出典先：文部科学省高等教育局「平成 27 年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」】

GPA 制度：平成 27 年度においては、「GPA 制度」は、学部段階で 634 大学（約 85%）が導入されており、その内、学部全体で導入しているのは 610 大学（約 82%）となっている。

授業科目ごとの成績評価を、例えば 5 段階（S、A、B、C、D）で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0 のように数値(グレード・ポイント：GP)を付与し、この単位あたりの平均(グレード・ポイント・アベレージ：GPA)を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

前述の通り、当校のカリキュラム上全ての科目が必修、または選択必修であるため、不合格科目が一つでもあると卒業できません。

そのため、GPA：1 以上が当校の卒業認定の要件となります。